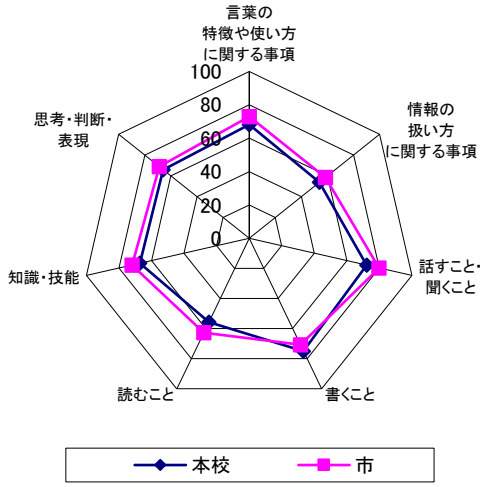
宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.2	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	53.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	72.2	79.8	75.9
	書くこと	75.0	70.7	71.7
	読むこと	55.7	62.8	62.5
観点別	知識・技能	67.2	72.0	74.4
	思考・判断・表現	66.0	69.0	68.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

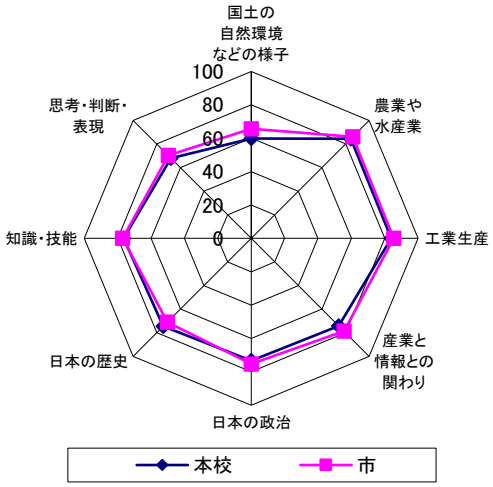
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○漢字の読みでは，正答率は市の正答率を下回ってはいるが，ほとんどの問題で正答率が8割を超えている。 ●漢字の書きと意味理解の定着が不十分である。 ●尊敬語と謙譲語の使い分けに課題が見られる。	・漢字の書き取りだけでなく，文章の中で実際に漢字を使うような場面を設定し，習熟を図る。 ・いろいろ読み方に慣れるような学習活動を設定する。 ・尊敬語と謙譲語を使うような場面（電話の応対など）や依頼の手紙を書く活動など，実際に体験させたり書いたりする活動を取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の正答率より低い。 ●複数の資料から必要な情報を読み取る力が不十分である。 ●複数の文章を簡潔にまとめて書くことに課題が見られる。	・新聞などの資料を使って，必要な情報を読み取る学習活動を積極的に取り入れる。 ・条件の付いた文章を書く場合の読み取りのポイントを習得できるよう，目的に応じた文章を簡単にまとめて書く活動を定期的に取り入れる。 ・模範解答を視写する活動を取り入れ，書き方のパターンを習得できる活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えることについての正答率は，84.7%であり，市の正答率を下回っているが，全国の正答率を4.6ポイント上回っており，おおむね理解できている。 ●計画的に話し合い，考えをまとめるための司会者の工夫を捉える問題の正答率は65.3%で市の正答率を11.4ポイント下回っている。	・日常的に1分間スピーチなど，簡潔に話す機会を設け，自分の考えや気持ちをまとめ発表できるようにするとともに，良い発表を称賛し，良さを共有し生かせるようにする。また，話合い活動において，自分の考えをまとめ，話す活動だけでなく，友達の発表の要点を意識して聞けるように指導していく。 ・司会者や発表者などの立場の違いを意識させるとともに，その役割を実際に行わせる活動を意図的に仕組んでいく。
書くこと	平均正答率は，市の正答率より高い。また，他の領域より高い。 ○「指定された字数で書くこと」の正答率は78.8%，「２段落構成で文章を書くこと」は73.7%と，市の正答率を大きく上回っている。指定された四つの条件をそれぞれ8割前後満たしている。	・今年度の学校課題であった表現力を中心とした研究の成果の表れと考えられる。さらに，様々な場面で書く機会を設け，一層の書く力の習熟を図る。 ・授業や家庭学習の中で，テーマや文章構成，字数などを設定した短作文課題をこれからも継続的に取り組ませる。
読むこと	平均正答率は，市の正答率より低い。 ●登場人物の心情について描写を基に捉える問題では，市の正答率34.6%と低いが，本校では22.9%と大きく下回った。 ●特に，第三者からの視点からまとめた問題や説明文の内容を捉えることに課題が見られる。	・新聞記事など，ある程度長い文章に対して，その文章の特長を類型化する課題を取り入れていくことで，初めての文章にも抵抗が少なく取り組めると考えられる。単元題材だけのまとまりでなく，それぞれの文章を比較して考える時間も多くしていく。 ・読み取る際に，登場人物の心情変化と重要な語句とを結びつけながら読むことを意識させる。説明文に課題が見られるので，要点の捉え方を指導する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	59.8	65.7	67.0
	農業や水産業	84.5	86.1	77.5
	工業生産	83.9	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	74.2	78.6	69.6
	日本の政治	73.3	75.2	65.8
	日本の歴史	74.6	71.1	69.1
観点別	知識・技能	76.4	77.0	72.8
	思考・判断・表現	68.0	70.3	64.5

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

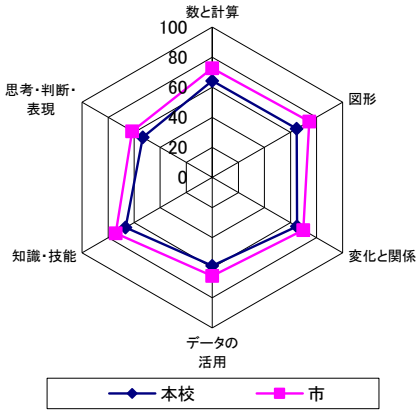
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○日本の周辺の海洋名を選ぶ設問では，市の平均を上回っている。授業の中で，地図帳やICTを活用し，視覚的な理解を図ったことが成果であると考えられる。 ●雨温図やグラフから都市の名前を選ぶ設問では，２つの情報を同時に処理できない児童が多く，図やグラフを読み取ることに課題が見られる。 ●森林を守るための間伐についての理解は，不十分である。	・地図帳やICTを使って，日本周辺の国や領土を視覚的に理解させることを継続していくとともに，児童の状況に応じて，国や領土の特徴や時代背景にも触れるなど深い理解を図っていく。 ・知っている知識を基に図やグラフを読み取る力を育むために，各学年の授業で，図やグラフから読み取れることを記述する活動や，読み取った根拠を表現する活動を積極的に取り入れる。
農業や水産業	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○米づくりの作業の理解については，市の正答率と比べても3.8ポイント上回っている。実際に米づくりを行ってきたことで，自身の活動と関連付けて考えることができたと考えられる。 ●米づくりの工夫について資料を読み取って分かることを記述する問題では，出題意図と異なる解答をした誤答が多く，問題の読み取り能力に課題が見られる。	・様々な資料を読み取る活動を取り入れ，分かることを記述するだけでなく，その時に必要なことだけをピックアップする活動を意図して取り入れていくことで，目的に応じた資料の読み取りができるようにする。 ・理解が難しい児童には，問題文をよく読んで，何を答えれば良いのか捉えてから記述する練習を取り入れる。
工業生産	平均正答率は，市の正答率よりやや低い。 ○工業製品の種類に関する設問の正答率は，90.7%と高かった。 ●環境に配慮して生産された電気自動車について考え，ガソリンカーと比較して記述する設問では，市の正答率を1.3ポイント下回った参考値を大きく上回った。	・工業製品について，教科書や資料集などで確認し，理解を深めさせる。 ・日本の工業について理解するとともに，資料を読み取る力をつけることが必要である。そのために，資料から分かることを自分の言葉で表現したり，話し合ったりする活動を取り入れていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○情報の正しい受け取り方について選択肢で回答する問題の正答率は，90%以上と高い。 ●放送，新聞などに着目して，情報産業の役割や責任の大きさについて，適切な言葉を入れる問題についての正答率は低い。	・様々なメディアに実際に触れる機会を設け，それぞれの情報の種類や特色について調べたり話し合ったりする活動を取り入れることで，情報を発信するまでの工夫や努力の共通点を知り，国民生活に大きな影響を及ぼすことについての理解を深められるようにする。
日本の政治	平均正答率が，市の正答率より低い。 ○日本国憲法における天皇の地位に関する設問では，市の平均を5.3ポイント上回っている。 ●三審制について資料を読み取る設問では，市の平均を8.0ポイント下回っており，課題が見られる。	・これまで行ってきた新聞やニュースなどを利用し，時事問題について継続して取り上げていくことで，児童の興味関心を高めていくようにする。 ・歴史の授業の中で，歴史的事実と日本国憲法の内容を結び付けて考えることで理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は，市の正答率より高い。 ○ほとんどの設問において市の平均を上回っており，1問を除いて全国正答率も上回っている。歴史上の人物に関する設問では，市の平均を11.2ポイント上回っている。 ●資料を読み取る設問では，市と全国の平均をともに下回っており，課題が見られる。	・歴史上の人物を授業の中で取り上げ，児童一人一人が様々な人物の功績を調べ発表する活動を取り入れて理解を深めていく。 ・授業の中で資料を基に考えられることを表現する機会を多く設ける。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	64.3	72.6	71.6
	図形	64.8	74.4	72.0
	変化と関係	65.0	69.8	62.6
	データの活用	58.7	65.5	59.1
観点別	知識・技能	66.5	74.1	68.9
	思考・判断・表現	53.3	61.6	63.7

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

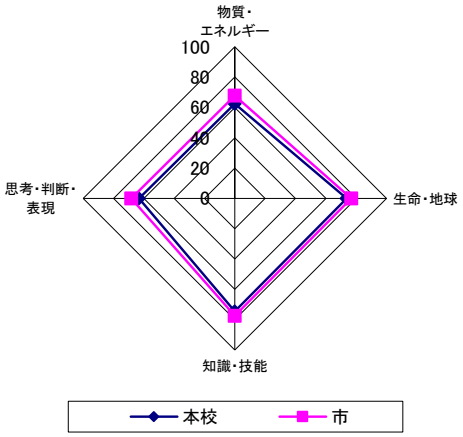
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均より低い。 ○分数×分数（約分なし）の計算，分数÷分数（約分あり）の計算の問題は，市の平均正答率は下回るものの，それぞれ89.1%と82.4ポイントと高い正答率だった。 ●図を使って，小数倍の文章問題（何倍かを求める）に合った除法の式を選ぶ問題は，市の平均正答率を大きく下回った。	・基本の定着に向けて繰り返し練習をするとともに，児童の実態に応じて発展的な問題を解決する力も身に付けられるよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導を徹底を図る。 ・分数や小数について，計算の意味や計算の仕方を，言葉，数，式，図，数直線などを用いて考えをまとめたり，説明したりする活動を取り入れることで，学習内容のさらなる定着を図る。
図形	平均正答率は市より低く，4領域の中で最も差が大きい。 ○点対称な図形について対応する辺を選ぶ問題は，市の平均正答率は下回るものの，80.7%と高い正答率だった。 ●三角形の角の大きさや正多角形の作図方法から，円の中心にできる角の大きさと正多角形の1つの内角の大きさを求める問題は，市の平均正答率の大きく下回った。	・図形の角の大きさについて，三角形の内角の和などの基礎知識をしっかりと定着させ，それを活用して多角形の角の大きさへつなげていけるよう指導する。 ・図形について面積・体積の公式や角の大きさの基礎的な知識の定着を目指すために，繰り返し問題を解く。また，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
変化と関係	平均正答率は，市の平均より低い。 ○平均を求める問題では，平均正答率は市を下回ったが，図から面積と人数の割合を求める問題では市の平均を上回った。 ●速さの問題で，秒速の異なる2つのものから，同時に到達するための距離を求める問題の正答率は，市の平均正答率を6ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさや速さを求める公式を確認し，さまざまな問題を活用しながら，学習内容の定着を図る。 ・異なる速さや平均を使った応用問題の解き方については，言葉や図を用いて説明させる活動を多く取り入れ，基本的な学習内容を応用できる力をつけていく。
データの活用	平均正答率は，他領域に比べ低く，市の平均より6.8ポイント低い。 ○度数分布表や平均値の求め方について，市の正答率を下回るものの73%以上の正答率であり，求め方は理解している。 ●最頻値を求める問題では，市の正答率を9.1ポイント下回る43.7%で，最頻値が理解できていないといえる。 ●グラフを読み取り，説明文の正誤とその理由を記述する問題では，市の正答率を9.3ポイント下回る24.4%と低く，具体的に説明することに課題が見られる。	・最頻値については，身近な例を挙げながら体得できるような活動を取り入れ，理解できるようにする。また，理解できても計算ミスによる誤答が見られるので，正確に解けるように繰り返し練習をしていく。 ・グラフの読み取りでは，グラフの中の情報を一つ一つ丁寧におさえ，何に着目して考えていけばよいか理解できるようにしていく。また，割合を表すグラフでは，基準量（調査人数等）にも着目する必要があることをおさえる。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.4	67.8	64.1
	生命・地球	73.7	76.7	78.3
観点別	知識・技能	74.5	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.2	68.3	66.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・ エネルギー	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○「電流のはたらき」では，電磁石の性質やはたらきについて，おおむね理解している。市の正答率に近い。 ●「ふりこのきまり」では，1往復する時間とおもりの重さとの関係を調べるための実験方法や，ふりこの周期についての理解が不十分である。市の平均正答率を大きく下回っている。 ●「物のとけ方」では，ろ過の正しい操作の仕方や水溶液の重さを求める問題の正答率が市の正答率を下回っており，今後の課題が見られた。	・実験を行う際には，課題意識をもたせたり，実験方法やそろえる条件と変える条件をしっかり確認したりして，定着が図れるような授業を展開していく。 ・観察する観点を明確に示し，実験結果を整理する際には，物を溶かす前と後の変化の様子を絵や図を用いて視覚化を図るなど，指導方法を工夫する。 ・児童が観察，実験などの結果を整理し，考察，表現する活動を多く取り入れ，科学的事象を正しく捉えられるようにする。 ・仮説を検証するための実験方法を児童に考えさせる機会をより多く取り入れる。
生命・地球	平均正答率は，市の正答率より低い。 ○「生物とかんきょう」では，光合成と呼吸を関連づけて考えたり，動植物のつながりを理解したりしており，市の正答率を上回っている。 ●「植物のつくりとはたらき」では，水の通り道などの基礎的な知識はあるが，予想から導き出せる結果について考える力が不十分である。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」では，血液と呼吸のはたらきについて理解が不十分であり，市の平均正答率を11ポイント下回っている。	・実験をする上で，根拠のある予想や仮説を立てたり，友達の予想を聞いて，その内容を理解したりする活動をした上で，実験に取り組ませ，絵や図とともに言葉でまとめる活動を取り入れる。 ・「動物のからだのつくりとはたらき」では，動画や人体模型などを用いて視覚的にとらえさせたり，図や絵を用いて体の各部分のはたらきについてまとめる時間をとったりして，理解を深める。 ・既習事項との関連を図りながら，理解を広げ深める時間を取り入れる。

宇都宮市立姿川第二小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力の伸長	いろいろな学習形態を取り入れた。進め方や観点を明示し，「分かりやすく伝える」，「説明する」，を意識した深まりのある話合いになるよう，言語活動を工夫している。文章記述での振り返りやまとめの場面を意識して取り入れている。その際，書き方やポイントを具体的に示すようにした。	「グループでの話合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合は，ほとんどの学年で市の平均を上回った。また，４年生以上で，「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる」に肯定的に回答した児童は，ほぼ70%で市の平均を上回った。６年生の学力調査の話すこと・聞くことの領域では，平均を下回っているが，書くことに関しては，全て平均を上回っている。
家庭学習の習慣化	週末の家読に全学年で取り組んでいる。学年の始めに，家庭学習の進め方や学習時間の目安についての資料を配付，年2回（1年生は1回）家庭学習強化週間を設け，一緒に振り返るなど，保護者にも協力をお願いして進めている。	「宿題をきちんとやり，期限までに提出している」と肯定回答した児童の割合は，90～100%で，良好であった。週末の読書時間や家庭での学習時間もほぼ市の平均を上回っている。３年生以上で「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童は，約70%と市と同程度であったが，６年生では83%と，平均を大きく上回った。また，４年生以上で「家の人は，あなたの学習に関心があり，必要な注意やアドバイスをしてくれる」と肯定的回答した児童の割合は，市の平均を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・県の調査で「自分の考えを文章に書くことは難しい」と回答した４・５年生の児童の割合は，55%～65%だった。しかし，３年生以上で「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる」の肯定割合は65%以上で，４年生以上では市の平均を上回っている。また，６年生では77%と高く，根拠を挙げながら自分の意見を書く，伝えることを学校全体で継続して取り組んできた成果と考えられる。今後も書く活動を意識して取り入れていく。
・県の調査で、「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」についての肯定的回答は，市の平均を上回っている。また，市の調査の６年生国語「文章を書く」では，市の平均，参考値を上回っている。学校全体で，まとめや振り返りの際に意識して取り組んだ成果であると考えられる。
・県の調査で「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は，50%に満たず，課題が見られる。授業の中でも，小グループの話合いで自分の考えを伝えることはできるが，相手に分かりやすく伝えることや友だちの意見をもとに自分の考えをもち，伝えることは不十分である。今後は，相手に分かりやすく伝えたり，説明したりすることを意識させ，一層の表現力の育成に努める。
・市の調査で，「本や新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は，ほとんどの学年で市の平均を上回った。今年度，表現力向上のため，意図的に新聞記事を教材に取り入れたり，読み聞かせ等でいろいろな本にふれる機会を設けたりした結果であると考えられる。今後も，読書の推奨や新聞に触れる機会の設定を意図的に行っていく。
・市の調査において，「きちんと宿題をやる」「自分で計画して家庭学習に取り組む」に肯定的に回答した児童の割合は高かったが，「授業で習ったことをその日のうちに復習している」については，肯定割合が低かった。今後は，家庭学習の進め方を指導する際に，復習することの大切さについてもしっかりと伝え，取り組めるようにする。